

# 温泉津新聞

## 温泉津の過去



昼食後に WATOWA の前で  
外見は古民家ですがリノベーションで素敵なお店になっています

十一月十七日（金） 宿泊研修二日目は温泉津に行きました。

案内してくださったのは、WATOWAの近江雅子さんと SUKIMONO の平下茂親さんです。近江さんは温泉津の町おこしをリードしている一人です。平下さんは近江さんの弟さんで、古民家の改修を実際に行っておられます。

以前の温泉津は人口も減って、空き家が増え、子供も少なくなつて、家の跡を継ぐ人もなかなかいない状況だったそうです。そこで、その状況を変えようとしたのが近江さんでした。

## 温泉津を歩く

最初は美川の町と変わらなれないと思いましたが、でも、近江さんに案内していただくと、美川とは大きく違いました。まず建物の見た目が違いました。美川では新しい家や古い家、空き家など色々な家が並んでいます。温泉津では新しい家が見当たらず、歴史を感じられる古民家がたくさん並んでいました。近江さんが経営されている旅館では、柱が昔のままにいたり、畳を敷いてあったりと当時の雰囲気を残すように改修を行っておられました。改修を担当した平下さんは、古民家の改修には既製品を使わず、0から考えて改修することを心に決めているそうです。



二つ目は、温泉津にあるお店です。「温泉津のお店」と聞くと、最初は和風なお店があると思っておりました。しかし、実際に行ってみると洋風でオシャレなお店が多くありました。また、オシャレなだけではなく、レトロなお店や温泉もありました。温泉津には、地域の方だけではなく、外国人観光客の人もたくさんおられたので、それだけ温泉津

は人気があるのだと実感しました。

ハンバーガーショップを経営されている方に話を聞くと、「コロナで移住した時にあなたかく迎えてくれた。近江さんといっしょなら温泉津が明るくなると思った。」とおっしゃっていました。また、最初「温泉津には良いところが無いから出たほうが・・・。」と言っていた地域の方も、今では知り合いに「帰っておいで」という方が多くなったそうです。近江さんと平下さんは温泉津を明るくしているのだと思えました。

お話を聞いた後、WATOWAで昼食をいただきました。温泉津で採れたお魚を使ったお寿司や、揚げ出し豆腐を食べて、とてもおいしかったです。日によってメニューが違うそうなので、ぜひまた行きたいです。

## 銀山ネズミ捕り

石見銀山ネズミ捕りとは、江戸時代、津和野の笹ヶ谷鉱山で採れた、銅とともに発掘された硫砒鉄鉱（りゅうひてっこう）を焼いて作られた殺鼠剤（さつそざい）です。硫砒鉄鉱を焼くと、ヒ素が分離して、猛毒である亜ヒ酸ができるので、その亜ヒ酸を使って殺鼠剤が作られました。

毒薬の代名詞として、物語やお芝居などに出てきます。石見銀山でとれたものではありませんが、銀山が有名だったので、この名前を使ったのです。